

地盤工学会 関東支部 造成宅地の耐震対策に関する研究委員会（H24 年度活動）
第 8 回（通算第 12 回）議事録案

日時：平成 24 年 9 月 21 日（金）9：30～12：30

場所：地盤工学会館 地下会議室

出席者：安田委員長、安尻委員、飯沢委員、内山委員、小川（和）委員、小西委員、小林委員、澤田委員、新坂委員、手塚委員、橋本（和）委員、橋本（隆）委員、福田委員、人見委員、松下委員、吉田委員、大林

資料：8-1 議事次第、議事録案、目次案

8-2 委員長コメント、名簿

8-3 第 7 章 7.3.2、7.3.3 修正原稿案

議事：

1. 委員長挨拶

・浦安市の相談会の実施状況についてみると、建替えという選択肢を持つ人が増えているようにも感じている。

・一方で一体化の推進についてもいろいろな議論が進んでいる。おそらく、冬頃から具体的な計画などに入って行くのではないかと。

・また、南海トラフについても被害想定が発表があった。これによって、宅地などの問題も関東のみならず全国に波及していくこととなる。その意味でも本研究委員会で作成中の手引書は有効になると考えられるので、作業を進めて行きたい。

2. 委員の交代

・金子委員（パシフィックコンサルタンツ）が東北へ転勤になったので、安尻委員に交代する。

3. 浦安市建築指導課依頼の相談会について

・8 月 18 日（土）美浜公民館、9 月 12 日（木）浦安市文化会館で実施した住民相談会の内容を調書にて説明。相談内容、回答について確認。

・今後の対応について、相談員の希望者を募った。

4. 戸建て住宅の液状化対応に関する手引書の内容について

3 章

・想定地震レベルに対する考え方について、L1、L2 に対するクライテリアについて議論があった。

L1 については「全層にわたって液状化させない」もしくは「有害な沈下・傾斜を生じさせない。」とし、L2 については「大規模半壊程度に至らない（ $1/60=16.7/1000$ ）」とする。

4 章

・芦屋シーサイドタウンの噴砂現象の記述の仕方について再考する。

・掲載可能な写真の確認をする。

5 章

・サウンディング調査については 5.2.2. に含める。

・調査深度は 20m にこだわらず、戸建ての場合には 10m 程度でも良いという記述を加える。

7 章

・7 章以降のバランスが悪いので、まず、総論的に液状化対応方法について詳述し、その後に戸建て（新設、既設）への対応について記述するように章構成を再考する。

・地盤改良では L1 までは対応できるが、L2 については変形抑制として考えていくことを記述する。

8 章

・事例（CPG と高圧噴射）を記述する。

5. 今後のスケジュール

・手引書の執筆について

10月9日までに本日の委員会結果を受けた修正原稿を幹事まで送付
原稿を全員に配信

章毎に担当者を決めて、査読を実施する。担当者については委員の皆様には御願いますが、
割り振りについては幹事に一任いただく。

11月2日 概ねの最終原稿案をもって委員会開催

・次回委員会

11月2日（金） 9:30～ 地盤工学会館

以上